

都心5区賃料

渋谷区と港区で上昇

高額物件の比率増加で

賃貸マンションに特化したマーケティングサポート

中央区	13001(△0.3)
港区	15277(1.3)
渋谷区	15429(1.4)
新宿区	13590(0.2)
千代田区	13844(△0.4)

(単位円、カッコ内は前月比%)

ト業務のリーシング・マネジメント・コンサルティンク(東京都港区、阿久津裕社長)は1月31日、昨年12月末時点の都心5区(中央区、港区、渋谷区、新宿区、千代田区)賃貸マンションの平均募集坪単価と礼金額を公表した。平均募集坪単価は渋谷区と渋谷区で上昇が続き、渋谷区の坪単価

は2010年1月以降最も高い1万5429円だった。両区では坪単価が高い物件の募集比率が増加していることが、単価上昇の理由と見られる。都心5区の平均募集坪単価は中央区1万3001円(前月比0.3%下落)、港区1万5277円(同1.3%上昇)、渋谷区1万5429円

(同1.4%上昇)、新宿区1万3590円(同0.2%上昇)、千代田区1万3844円(同0.4%下落)だった。平均募集礼金は中央区0.54カ月(同0.03カ月減)、港区0.48カ月(同変わらず)、渋谷区0.58カ月(同0.03カ月増)、新宿区0.64カ月(同変わらず)、千代田区0.48カ月(同0.07カ月増)だった。上昇エリアでは礼金ゼロ物件の募集数が減少しており、需要が拡大する繁忙期を意識した条件設定での募集が行われていると考えられる。同社は「仲介店舗の反応を見みると『今年はエンド客の動きが早い』1月の時点でかなり来店が増えている」といった声が多く聞かれる」としている。

このデータは、同社の賃貸マーケットデータファイルエリア版をもとに作成したもの。